

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9番29号
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 12 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に2Fにナースが居り、緊急時などすぐDrの指示を仰げるようになってきている。また、ターミナルケアにも取り組んでいる。ホーム内では、利用者の方々個々のペースでゆったりとんびり過ごしてもらえる環境づくりに取り組んでいます。フロアはもちろん廊下やお風呂場なども広々としており、利用者には喜んでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は広大な敷地に立つ介護老人保健施設の3階にあり、開設から13年目を迎える。開設当初からの理念である個別ケアや思いやりのあるケアをを大切に、地域に根ざした活動を積み重ねてきている。今年度は特に防災に重点的に取り組み、住民と協議を重ねて地域防災協定の調印に至った経緯がある。事業所と地域が互いに避難訓練に参加し、経験を共有しながら協力関係を構築している。職員は地域の夏祭りに屋台をだして参加するなど、地域の中に溶け込むよう努めている。また、介護老人保健施設を併設している利点を生かし、24時間医療体制を整備して看取りケアに積極的に取り組んでいる。今年度より、3ユニット複数管理者体制で再スタートし、話し合いを重ねながら職員の結束を図り、サービスの向上を目指そうと意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)
氏名 金浦克俊

評価完了日 平成28年 10月 12日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各ユニットの事務所に理念を掲示しています。毎週月曜日に、申し送り後に管理者、職員共に理念を唱和し実践につながるよう努めています。	今年度新体制で再スタートし、チーム作りに意欲的に取り組んでいる。この機会に改めて理念に立ち返り、事業所が目指すケアについて造詣を深め、職員の意思統一を図ることを期待したい。
			(外部評価) 開設当初からの理念である「一人ひとりの思いや生活を大切に、その人に合った個別ケア、相手の立場に立ち思いやりのあるケアをする」を大切に継承し、それに基づく行動指針を作成してユニット事務所に掲示し、毎週月曜日に唱和して職員間で共有している。管理者は「笑顔で、思いやり、優しい声かけ」を大切にしてケアを行うよう指導しており、職員もその実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学生との交流会や夏祭り、秋祭りなどの催しに参加しています。また、施設での行事の参加にも声掛けを行い地域の方との交流も出来ています。	
			(外部評価) 町内会に加入しており、回覧板や運営推進会議で地域行事の情報を得てできる限り参加するようにしている。利用者は地区夏祭りに家族と共に参加し、職員はフランクフルトを販売して好評を得ている。秋祭りには神輿や獅子舞が複合施設を訪れ、利用者は楽しみにしている。事業所が行う夕涼み会には近所の方が訪れて一緒に楽しんでいる。また、地区の小学生が年2回訪れたり、利用者が運動会の招待を受けて参加する等、相互に行き来して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々の支援に直接取り組むことは難しいと思われま す。利用者の家族様には、これまでに得た知識や経験による関わり方の説明をしています。運営推進会議にて話し合いを行い、地域の人々に理解して頂いています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回現状を報告させていただいています。地域の支援を得ていると感じます。外部評価などでも報告を行い話し合いを行っています。	管理者は運営推進会議への家族の参加を増やし意見を述べてもらいたいと考えており、開催場所をユニットに変更することで、参加しやすい環境になると考えている。避難訓練等への協力の意向を示す家族もあり、さらに家族との協力関係を深めていくための環境づくりに期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は、家族や町内会長、民生委員、市担当課職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告のほか、今年度は災害時避難訓練や協力体制について重点的に話し合った結果、地域防災協定の調印を行うことができた。議事録は廊下に掲示して周知を図ったり職員に回覧している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者も運営推進会議に参加して頂きサービスの向上など意見交換をしています。協力関係も得られていると思います。	
			(外部評価) 地域包括支援センター職員や市担当課職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、助言等を行っている。相談事項があると、介護支援専門員が市に出向いて担当者の指導を受けている。地域包括支援センターが主催するグループホーム連絡会に参加して交流したり、入居相談を受けることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者を大切にしている、身体拘束はしていません。階段やエレベーターの施錠は利用者の安全確保の上、行っています。また、身体拘束は家族様の同意の下行っております。	
			(外部評価) 職員全員が身体拘束の具体的な行為を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒の危険がある利用者に対し、夜間のみ4点柵を使用したことがあるが、その際は家族に説明し了承を得た上で必要最小限の使用にとどめている。また、事業所は3階にあり、エレベーターはキーロックがかけられているが、階下に降りる際は職員が付き添っている。言葉の拘束についても意識しており、言い方を工夫したり、その後のコミュニケーションを大切にしよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会やユニット会で話し合っています。入浴、更衣時などに身体チェックを行い、異変がある場合には報告、話し合いを行い、防止に努めています。優しい声掛けや無理の無い介助を行っております。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を活用しようと考えている該当者がいないので話し合いは出来ていません。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時に家族様、本人様に説明を行い、要望を聞き、ご理解ご納得を得れるよう努めています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会、カンファレンス時等に家族様、利用者様の意見・要望をお聞きしています。また、それらは、ケアプランに反映させています。	
			(外部評価) 地元出身の利用者も多く家族の面会が多い。職員は面会時家族に声をかけて日常の状況を伝え、要望を聴き取るよう努めているほか、担当職員が便りを作成して毎月送り意思疎通を図っている。家族に声をかけて花見や夕涼み会に参加してもらい、交流の機会を持って関係を深めている。また、介護保険制度変更時や防災訓練の際は、家族会を開催して意見交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 随時話し合える関係作りを行っており、また、定期的にユニット会を設け、意見交換の場としている。 (外部評価) 職員は毎月行われるユニット会議で意見や提案をすることができる。管理者は職員に心がけて話しかけるようにして意見や想いを把握すよう努めており、10代から60代の幅広い職員のチームワーク作りに取り組んでいる。新入職員に対し新人研修や個別指導の仕組みがあるほか、研修助成制度や職能手当支給制度があり、職員は意欲的に研修に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1回、各個人で自己評価をしてもらい、給与水準や労働環境等に反映させて、各自が向上心を持って働けるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的な施設内の勉強会を開催して職員各自のレベルアップに努めている。法人外の研修は、不定期ではあるが内容を吟味しながら出来るだけ参加できるようにし、OJTに活用している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループ内の他事業部とは交流があり、勉強会やイベント等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいるが、グループ外と同業者との交流は乏しく、取り組めていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人様の要望を出来る限りサービスに組み入れ、安心して生活できるよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様からの要望や不安な事は必ずお聞きし、対応できるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) お聞きした要望と本人様の必要としている支援をよく理解し対応しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と一緒に過ごす時間を作り、本人様の気持ちを一番に考え理解し、支えていくようにしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様には、月1回のお便りや面会時にて現状報告を行うと共に、要望・意見に耳を傾け、家族様の意向を踏まえながら共に支え合っています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様にはいつでも面会できるように、又、居室も馴染みの物を置いて支援に努めています。外出も希望に沿って自由にはいただいています。	
			(外部評価) 入居時に生活歴等を聴取して人間関係や背景の把握に努め、入居後は日常の会話を通して聞き出したことを記録して職員が共有するようにしている。また、階下のデイサービスに来訪した方と一緒にイベントに参加できるよう支援している。ユニット合同で行事を行うこともあり、新たな馴染みの関係ができています。105歳のお祝いに103歳の利用者が詠んだ句を色紙に書いて送り、飾っている利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性や性格等を考え、席の配置に努めています。レクリエーションや行事参加で利用者同士が関わりあえるよう支援に努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) いつでも相談や来所出来るよう支援の取り組みはしていますが、退所された利用者様の支援は難しいです。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンス等で本人様や家族様の要望は必ずお聞きして把握に努めています。また、本人様の視点に立って検討し、要望に沿ったサービスを行っています。 (外部評価) 職員は日常の会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。就寝時や入浴時等1対1になる機会を利用して、利用者の話しをよく聴いている。思いを表すことが困難な利用者には表情や行動等をみて推測するよう努めている。利用者が言った言葉を記録に残し、モニタリング時に振り返って思いの把握に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様や家族様からの話しやサマリー等により、把握に努めています。また、お聞きした情報は職員間で共有しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、一人ひとりの生活の現状を記録し、把握に努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回、本人様・家族様交えてのカンファレンスにて話し合いを行っています。希望に沿った介護計画を作成しています。(家族様不参加の場合はお電話にて要望・希望をお聞きしている) (外部評価) 計画作成担当者が介護計画を立案し、職員が話し合っって介護計画を完成させている。職員は毎日計画を意識しながらケアを行い、実施状況を記録している。利用者担当職員が毎月モニタリングを実施、状態の変化がある場合はその都度、ない場合は3か月毎に介護計画の見直しを行っている。また、6か月に1回開催するサービス担当者会議には、家族や必要に応じて看護師も参加して話し合い、現状にあった介護計画を作成している。介護計画はその都度家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の暮らしの様子を記録・把握し、実践へ反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々(状況・状態)に応じて職員間で話し合いをしたり、ケアプランの変更を行ったりと、個々のニーズに対応しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問理美容の活用や移動動物園などの行事などに参加しています。ボランティアによる催し(歌・音楽・踊り等)等、力を借りた取り組みにも参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人様・家族様の希望のかかりつけ医を把握して、緊急時 でも対応できるように関係を構築している。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診する ことができるが、入居時に往診してもらえ協力医に変更 する利用者が多い。専門科外来受診の際は家族が付き添っ ているが、困難な場合は訪問介護や介護タクシー等利用で きるサービスを紹介して手配する支援を行っている。階下 の複合施設に24時間看護師が常駐して、医師との連携や 相談に応じてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者様の特変時にすぐ看護師に連絡し、指示を受けれる 体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時はサマリーを活用したり、家族様と一緒にDrの 説明を聞くなどして、情報の交換、入退院後の対応に支援 できるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時、又は、重度化してターミナルケアの必要性が出て きた際に、家族様・本人様と話し合い、その中で事業所で 出来ることを説明した上で希望を聞き、チームケアで支援 している。	
			(外部評価) 大半の利用者や家族が最期まで事業所で暮らしたいという 希望を持っており、看取りに関する指針を作成して看取り ケアを実施している。複合施設の協力医や看護師が24時 間体制をとっており、すぐに対応してもらえるので職員は 安心してケアを行うことができている。家族が希望する場 合は、宿泊スペースを用意して家族とともにケアを行い、 「病院ではできない世話をしてもらった。」と感謝されて いる。職員は「悔いのない介護をしよう。」と話し合い、 看護師が開催するターミナルケア研修会に参加して研鑽に 努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や公衆を行ってはいるが、全ての職員が実践力を身につけているとは言いがたく、今後改めて勉強会が必要と思われる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練を行っており、地域との協力体制も構築できている。 (外部評価) 複合施設全体で年2回日中と夜間を想定した避難訓練を行い、近所の住民も参加してもらうほか、地区で行われる防災訓練に職員が参加して協力しながら避難訓練を実施している。施設は災害時避難所として協定を結んでおり、地域の人々に頼られている実感を持って、協力体制を構築している。水、食料、毛布等の備蓄品を最上階に保管し、事務所職員が管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重して優しい声掛け、思いやりを持った対応をしている。朝礼で理念を唱和し意識付けを図っている。 (外部評価) 職員は利用者は人生の先輩であり、敬意をもって接すべきであるという認識のもと、一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。管理者は、声かけが過度な馴れ合いにならないよう、気づいた時はその都度指導している。通常居室のドアは閉めて、プライバシーの確保に努めている。現在入浴や排泄介助時、同性介護を希望する利用者はいないが、希望があれば応じる考えでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人様が希望や思いを言い易い環境を整えて働きかけを行っており、応えていただける利用者には自己決定の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 意思表示の出来る方には希望に沿って出来ることは支援しているが、出来ない方のほうが多いので、そういった方は職員間で話し合って決定、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理美容の方に定期的に来て頂いており、本人様・家族様の希望するおしゃれ・身だしなみ出来るよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の方々に、準備や片づけを希望したり、又、能力的に出来る方がいない為、職員側が全面的に支援している。食事は利用者の好みも考慮して支援している。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスのよい食事を各ユニットで調理している。利用者は調理の匂いや音を楽しみながら、おしぼりの用意や食器拭き等できることを手伝っている。現在食事介助を必要とする利用者が多くなっているため、ゆっくり食べてもらえるよう時間をずらして介助している。また、利用者の状態に適した食事形態を工夫して、十分な栄養が摂れるよう支援している。誕生日等と特別な日や月2回の自由献立の日は利用者の希望を取り入れて調理し、楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が作る献立で食事提供をしており、一人ひとりの食事量・水分量もチェックし記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、利用者のレベルに合わせた口腔ケアを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンの把握・支援に努めている。	
			(外部評価) 各ユニットにトイレが2か所あり、男性用トイレや車椅子を自走する利用者がゆったり利用できる広さのトイレがある。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。ブザーを押すことができる利用者は夜間も知らせてもらってトイレ介助を行なっている。利用者の状態の変化に応じて職員で話し合い、適切な排泄用品を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤の服用など個々に応じて便秘予防に取り組んでおり、医師・看護師との連携も出来ている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者全体がスムーズに入浴を楽しめるように、ある程度の時間・曜日は決めて、利用者との会話を楽しんでもらいながら支援している。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に週3回を基本に入浴している。浴槽に昇降機が設置されており、立位がとれない利用者も湯船に入ることができる。浴室は広く、特別浴槽は改修予定で、より楽に浴槽へ移ることができるようになる見込みである。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫したり、日を変えて無理強いすることなく入浴ができるよう支援している。入浴中はゆっくり話しをしたり、ラジオをかけて入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中・夜間とも、個々の年齢や体調を鑑みながら、安眠・休息できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬の情報を把握し、誤薬が無いよう渡すときには再度確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々のレベルに合わせて嗜好品やレクリエーション・お手伝いなどの支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の希望に沿っては難しいが、晴天時には中庭へ散歩に行ったり、家族様の協力がある方は外出されたりと、出来る範囲で支援している。 (外部評価) 天気の良い日は広い敷地に出て、散歩や日光浴を楽しんだり、近くのコンビニまで買い物に出かけることもある。夏季には近所の人蝉取りに来ることもある。また、福祉車輛を使用して桜やコスモス等季節の花々の見物、大型スーパーや道の駅等に遠出して、外出を楽しめるよう支援している。花見には家族にも声をかけ、車椅子やテーブルを自動車に乗せて全員が出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる方は持っただき、困難な方は職員が金銭管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様・家族様の希望がある場合は電話でお話しされている。手紙は現在要望が無く支援していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は広く明るい。夏は遮光すだれをベランダに取り付け、壁には季節感のある掲示物を飾ったり、イベントの写真を貼ったりして居心地の良い空間作りに努めている。	
			(外部評価) 3ユニット個々に専用の入り口があり、それぞれが特徴のある共用空間になっている。クリスマスの飾り付けがされたリビングは広々としており、キッチンや椅子席、ソファ席が設けられ、利用者は思い思いの場所でくつろがれていた。廊下の所々に利用者が寄贈したという油絵が飾られ、古い家具が置かれており、昭和の雰囲気をかもし出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人ひとりの相性や要望を考慮しながら、TVや音楽、雑談にと、思い思いに過ごしていただける空間作りに努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 布団や枕など本人様を使い慣れたものを使用させていただき、思い出のものや写真などを置いたりして、居心地の良い居室作りに努めている。	
			(外部評価) 居室は3階にあり、大きな窓から松山市街の良い眺めを楽しむことができる。部屋にはエアコンとベッド、整理ダンスが備えつけられており、ベッドは利用者の状態に合わせたものが配置されている。利用者は自宅から愛用のタンスや藤家具、鏡台、テレビ、加湿器等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置している。また、家族写真や利用者の手作り作品、年毎の誕生日祝い色紙等を飾って個性的な部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) カンファレンスやユニット会で利用者一人ひとりの残存能力を活かした生活が送れるよう支援している。自身で移動できる方には自由に動いて回れる、広々としたバリアフリーの空間になっている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9番29号
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 12 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に2Fにナースが居り、緊急時などすぐDrの指示を仰げるようになっている。また、ターミナルケアにも取り組んでいる。ホーム内では、利用者の方々個々のペースでゆったりのんびり過ごしてもらえる環境づくりに取り組んでいます。フロアはもちろん廊下やお風呂場なども広々としており、利用者には喜んでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は広大な敷地に立つ介護老人保健施設の3階にあり、開設から13年目を迎える。開設当初からの理念である個別ケアや思いやりのあるケアをを大切に、地域に根ざした活動を積み重ねてきている。今年度は特に防災に重点的に取り組み、住民と協議を重ねて地域防災協定の調印に至った経緯がある。事業所と地域が互いに避難訓練に参加し、経験を共有しながら協力関係を構築している。職員は地域の夏祭りに屋台をだして参加するなど、地域の中に溶け込むよう努めている。また、介護老人保健施設を併設している利点を生かし、24時間医療体制を整備して看取りケアに積極的に取り組んでいる。今年度より、3ユニット複数管理者体制で再スタートし、話し合いを重ねながら職員の結束を図り、サービスの向上を目指そうと意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) のぎく

記入者(管理者)
氏名 中村ひとみ

評価完了日 平成 28 年 10 月 12 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念でなく、GHとしての理念はあります。週に1回、朝の申し送り時に、職員一同復唱を行い、理念を共有し実践できるよう努めています。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの理念である「一人ひとりの思いや生活を大切に、その人に合った個別ケア、相手の立場に立ち思いやりのあるケアをする」を大切に継承し、それに基づく行動指針を作成してユニット事務所に掲示し、毎週月曜日に唱和して職員間で共有している。管理者は「笑顔で、思いやり、優しい声かけ」を大切にしてケアを行うよう指導しており、職員もその実践に努めている。</p>	今年度新体制で再スタートし、チーム作りに意欲的に取り組んでいる。この機会に改めて理念に立ち返り、事業所が目指すケアについて造詣を深め、職員の意思統一を図ることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的ではないが、夕涼み会を開催し地域の方にも来て頂いている。又、夏祭り、秋祭りなど地元の活動に参加したり、地域の小学校の生徒さんとの交流を設けている。地域防災訓練にも参加している。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入しており、回覧板や運営推進会議で地域行事の情報を得てできる限り参加するようにしている。利用者は地区夏祭りに家族と共に参加し、職員はフランクフルトを販売して好評を得ている。秋祭りには神輿や獅子舞が複合施設を訪れ、利用者は楽しみにしている。事業所が行う夕涼み会には近所の人を訪れて一緒に楽しんでいる。また、地区の小学生が年2回訪れたり、利用者が運動会の招待を受けて参加する等、相互に行き来して交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し地域の方々に施設内の状況をお知らせし、理解していただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、施設、地域の役員の方々、市の担当者 と意見交換を行い参考にして、サービス向上に努めている 。	
			(外部評価) 運営推進会議は、家族や町内会長、民生委員、市担当課職 員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議で は、利用者状況や活動報告のほか、今年度は災害時避難訓 練や協力体制について重点的に話し合った結果、地域防災 協定の調印を行うことができた。議事録は廊下に掲示して 周知を図ったり職員に回覧している。	管理者は運営推進会議への家族の参加を増やし意見を 述べてもらいたいと考えており、開催場所をユニット に変更することで、参加しやすい環境になると考えて いる。避難訓練等への協力の意向を示す家族もおり、 さらに家族との協力関係を深めていくための環境づく りに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に介護保険の方へ出席して頂き、意見助言を 頂いているが、日頃から連絡は密には取れていないので努 力が必要である。	
			(外部評価) 地域包括支援センター職員や市担当課職員は運営推進会議 に参加して事業所の状況を把握し、助言等を行っている。 相談事項があると、介護支援専門員が市に出向いて担当者 の指導を受けている。地域包括支援センターが主催するグ ループホーム連絡会に参加して交流したり、入居相談を受 けることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてすべての職員が理解しているとは言えな い。身体拘束になる前に職員同士話し合いをしており、ご 家族の希望も含め、本人の人権を優先している。	
			(外部評価) 職員全員が身体拘束の具体的な行為を理解し、拘束をしない ケアに取り組んでいる。転倒の危険がある利用者に対し、 夜間のみ4点柵を使用したことがあるが、その際は家族に 説明し了承を得た上で必要最小限の使用にとどめている。 また、事業所は3階にあり、エレベーターはキーロックが かけられているが、階下に降りる際は職員が付き添ってい る。言葉の拘束についても意識しており、言い方を工夫し たり、その後のコミュニケーションを大切にしよう努め ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内で勉強会をして学ぶ機会があり、理解をしていると共に職員同士、利用者様の状況を互いに意見が言える環境を作り記録に残したり報告書を作成し、小さな変化も全員が把握している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学ぶ機会はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に説明を行い、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) アンケート箱の設置をして家族様のご意見、要望が言いやすいよう配慮している。 (外部評価) 地元出身の利用者も多く家族の面会が多い。職員は面会時家族に声をかけて日常の状況を伝え、要望を聴き取るよう努めているほか、担当職員が便りを作成して毎月送り意思疎通を図っている。家族に声をかけて花見や夕涼み会に参加してもらい、交流の機会を持って関係を深めている。また、介護保険制度変更時や防災訓練の際は、家族会を開催して意見交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けることは出来ない。 (外部評価) 職員は毎月行われるユニット会議で意見や提案をすることができる。管理者は職員に心がけて話しかけるようにして意見や想いを把握すよう努めており、10代から60代の幅広い職員のチームワーク作りに取り組んでいる。新入職員に対し新人研修や個別指導の仕組みがあるほか、研修助成制度や職能手当支給制度があり、職員は意欲的に研修に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1回、各個人で自己評価をしてもらい、給与水準や労働環境等に反映させて、各自が向上心を持って働けるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的な施設内の勉強会を開催して職員各自のレベルアップに努めている。法人外の研修は、不定期ではあるが内容を吟味しながら出来るだけ参加できるようにし、OJTに活用している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループ内の他事業部とは交流があり、勉強会やイベント等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいるが、グループ外の同業者との交流は乏しく、取り組めていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階で本人、家族様の希望や不安を取り除けるよう話し合いを持っている。入所後は信頼関係が築けて安心して頂けるよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用を始める段階でご家族様より、よくお話しを聞いて、困っていること不安なことに耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時、本人を交えてカンファレンスを実施して意向をお聞きして、本人・家族様が何を必要とされているか見極め、対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人の出来ること、利用者様の力に応じた作業をご一緒に行うことで共に支え合って生活していける関係が築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員がご本人を支えるのではなく、ご家族様の面会時、ご本人の生活状況を報告して、出来るだけ協力して頂き共に支えていけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居時、ご家族様よりお聞きしたことを職員間で共有し、友人や顔馴染みの方などの面会時、ゆっくりと過ごして頂ける様努めている。場所に出向くことは難しい。 (外部評価) 入居時に生活歴等を聴取して人間関係や背景の把握に努め、入居後は日常の会話を通して聞き出したことを記録して職員が共有するようにしている。また、階下のデイサービスに来訪した方と一緒にイベントに参加できるよう支援している。ユニット合同で行事を行うこともあり、新たな馴染みの関係ができています。105歳のお祝いに103歳の利用者が詠んだ句を色紙に書いて送り、飾っている利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとり性格や感情の変化を理解した上で、良い関係が築けるよう職員が介入し、利用者同士が支えられるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も病院、他の施設等に面会に行き関係性を大切にしている。必要に応じて相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の行動、言動、表情の観察を行い、ご本人のペースに合わせて、その中で思いや希望を把握するよう努めている。 (外部評価) 職員は日常の会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。就寝時や入浴時等1対1になる機会を利用して、利用者の話しをよく聴いている。思いを表すことが困難な利用者には表情や行動等をみて推測するよう努めている。利用者が言った言葉を記録に残し、モニタリング時に振り返って思いの把握に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでのご本人の歴史をご家族様やご本人からお話を伺い、情報を得たり、サマリー、フェイスシートで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの行動、心身の状態をしっかり観察を行い記録に残している。又、日勤者から夜勤者へ申し送りを行い職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ作成のケアプランに基づきケアを行っている。ユニット会や申し送りで出た意見等を検討し、カンファレンスで家族・本人を交え、要望・今必要としている課題を話し合い、現状を即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 計画作成担当者が介護計画を立案し、職員が話し合って介護計画を完成させている。職員は毎日計画を意識しながらケアを行い、実施状況を記録している。利用者担当職員が毎月モニタリングを実施、状態の変化がある場合はその都度、ない場合は3か月毎に介護計画の見直しを行っている。また、6か月に1回開催するサービス担当者会議には、家族や必要に応じて看護師も参加して話し合い、現状にあった介護計画を作成している。介護計画はその都度家族に説明し、同意を得ている。	記録様式は、各ユニットでそれぞれが工夫して異なる書式や記載方式をとっており、職員異動の際に不都合を感じることもある。改めて記録の意義や目的について全職員が話し合いながら、統一した書式と記録方法を検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者、家族の言われたことはそのままの言葉で記録、日々のケアプランの実施、様子を個別記録に記入し職員間で情報を共有し計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望を極力実現できるよう努めている。困難なことは何故か説明し理解して頂ける様にしている。利用者の状態に沿ったケアが理想だが全ての方には取り組めていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防訓練時は消防署の協力を仰いでいる。ボランティアの来訪、小学校との交流を行っている。利用は限られているが地域行事には参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 一人ひとりが納得してかかりつけ医を受診しており、情報 を共有しながら支援に努めている。他の病院を受診される 場合は、本人の様子を記載し適切な医療を受けられるよう 支援している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診する ことができるが、入居時に往診してもらえ協力医に変更 する利用者が多い。専門科外来受診の際は家族が付き添っ ているが、困難な場合は訪問介護や介護タクシー等利用で きるサービスを紹介して手配する支援を行っている。階下 の複合施設に24時間看護師が常駐して、医師との連携や 相談に応じてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の心身の変化を把握して状況に応じ、看護師に報 告、指示を仰いでいる。施設内は24時間体制で看護師が 居り特変時には連携が取れるようになっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ケアマネ、管理者が病院関係者と情報交換、相談に努めて いる。入院時には面会を行い、利用者の不安を出来るだけ 取り除き、安心してもらえるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時、体調が急変、終末期に向けて、又、その都度、本 人・家族の意向を確認し医療と相談、協力して支援してい る。ターミナルケアを受け入れており、重度化した場合は 家族と話し合い、意向を受け入れ、その人にとって今すべ きことをチームで考えケアに努めている。 (外部評価) 大半の利用者や家族が最期まで事業所で暮らしたいという 希望を持っており、看取りに関する指針を作成して看取り ケアを実施している。複合施設の協力医や看護師が24時 間体制をとっており、すぐに対応してもらえるので職員は 安心してケアを行うことができている。家族が希望する場 合は、宿泊スペースを用意して家族とともにケアを行い、 「病院ではできない世話をしてもらった。」と感謝されて いる。職員は「悔いのない介護をしよう。」と話し合い、 看護師が開催するターミナルケア研修会に参加して研鑽に 努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時、スタッフが協力して対応にあたり、医療と連携している。定期的に訓練や勉強会を実施しているが全ての職員が実践力を身につけているとは言えない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時に備え、昼夜を設定とし、訓練を実施している。全職員が避難できる方法を身につけているとは言えない。地域とは一時避難場所として協定を結び、協力体制を取ろうと努めている。	
			(外部評価) 複合施設全体で年2回日中と夜間を想定した避難訓練を行い、近所の住民も参加してもらうほか、地区で行われる防災訓練に職員が参加して協力しながら避難訓練を実施している。施設は災害時避難所として協定を結んでおり、地域の人々に頼られている実感を持って、協力体制を構築している。水、食料、毛布等の備蓄品を最上階に保管し、事務所職員が管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりのプライバシーを確保するには難しいが、配慮はしている。その人に合った声掛け、対応を行っている。優しい声掛け、思いやりを持ったケアを心がけている。人生の先輩として尊敬の念を持ち、接しているが難しい時もある。職員間同士、注意しあえるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は利用者も人生の先輩であり、敬意をもって接すべきであるという認識のもと、一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。管理者は、声かけが過度な馴れ合いにならないよう、気づいた時はその都度指導している。通常居室のドアは閉めて、プライバシーの確保に努めている。現在入浴や排泄介助時、同性介護を希望する利用者はいないが、希望があれば応じる考えでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望があった場合、支援できるよう努めている。自己決定できない場合は、状態に応じ職員が決めている。生活の中での洋服、おやつ等の選択は、職員が決めてしまっている事が多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく本人の希望に添えるよう支援しているが、多忙な為、職員のペースになっている時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理美容は希望に添えている。特別な行事や外出時には清潔感が出るよう心がけている。いつも同じ服にならないようにしており、努めている。毎日の身だしなみは自分で出来ない方は職員が支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生会の行事で楽しんでいただいている。介護度が高く、準備・食事作りは難しいが、食器拭き等、限られた方はしていただいている。介助を優先しており職員と一緒に食事は取れていない。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスのよい食事を各ユニットで調理している。利用者は調理の匂いや音を楽しみながら、おしぼりの用意や食器拭き等できることを手伝っている。現在食事介助を必要とする利用者が多くなっているため、ゆっくり食べてもらえるよう時間をずらして介助している。また、利用者の状態に適した食事形態を工夫して、十分な栄養が摂れるよう支援している。誕生日等と特別な日や月2回の自由献立の日は利用者の希望を取り入れて調理し、楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量、栄養バランスは栄養士がメニュー考案している。個々に応じ、摂取量が異なる為、補助食品を加えている方もあり、水分量を把握し、声掛け、ジュース等工夫して1日水分量を確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後自分で出来る方は声掛け、口腔ケアしていただいている。出来ない方はその方にあった口腔ケア用具にて職員がお手伝いしている。寝る前には義歯の方にポリドント使用し清潔保持している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はパンツ使用して尿意・便意に応じ誘導し、ない方は時間を見て声掛け誘導して、排泄の失敗、オムツ減らし、自立に近づけるよう支援している。夜間もトイレ訴えの方は対応している。	
			(外部評価) 各ユニットにトイレが2か所あり、男性用トイレや車椅子を自走する利用者がゆったり利用できる広さのトイレがある。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。ブザーを押すことができる利用者は夜間も知らせてもらってトイレ介助を行なっている。利用者の状態の変化に応じて職員で話し合い、適切な排泄用品を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バランスの取れた食事は取れており、水分摂取量も確保できるように努めている。リハビリの一環として個々に実施しているが十分な運動とは言えず、便秘解消までには至っていない。定期的な内服やその時に応じ、下剤を服用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日や時間は職員の都合で決めている。体調や通院などで入浴できない場合は、日を変えて入浴していただいている。一人ひとりの希望には応じられていない。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に週3回を基本に入浴している。浴槽に昇降機が設置されており、立位がとれない利用者も湯船に入ることができる。浴室は広く、特別浴槽は改修予定で、より楽に浴槽へ移ることができるようになる見込みである。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫したり、日を変えて無理強いすることなく入浴ができるよう支援している。入浴中はゆっくり話しをしたり、ラジオをかけて入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の体調、希望に合わせて、日中も休息していただいたり、夜も生活習慣に合わせて、床についていただけよう支援している。室温、環境を考慮して眠れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが使用している薬の目的、副作用については、すべては理解できていないが、一部は理解している。薬が合わない症状が出てきた場合は、医療へ相談、指示を仰いでいる。誤薬防止の為、服薬前には職員間でのダブルチェックを実施している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 嗜好品は家族からの差し入れがある方も居られる。ユニット内のレクリエーション、デイケアでの行事参加、外出等で気分転換できるように支援している。生活の中でお手伝いをさせていただく事もあるが、皆ではない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は予定を組んだ日に限り、個々の希望には添えていない。家族の協力により、花見、地域の夏祭りに同行していただいている。 (外部評価) 天気の良い日は広い敷地に出て、散歩や日光浴を楽しんだり、近くのコンビニまで買い物に出かけることもある。夏季には近所の人や蝉取りに来ることもある。また、福祉車輛を使用して桜やコスモス等季節の花々の見物、大型スーパーや道の駅等に遠出して、外出を楽しめるよう支援している。花見には家族にも声をかけ、車椅子やテーブルを自動車に乗せて全員が出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭に関しては本人は所持していない。職員がお小遣いとして預かっており、外出時にはいつでも使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の訴え時、職員が間に入り電話する事がある。介護度が高い方が多く、面会をされており、手紙のやり取りはされていない。携帯電話を持たれ直接家族と連絡を取っている方も居られる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 飾り付けや生花など季節感を採り入れる工夫をしている。カーテンやブラインドで温度や光の調節をしている。台所の食事作りから音、香りで生活感を感じていただいている。	
			(外部評価) 3ユニット個々に専用の入り口があり、それぞれが特徴のある共用空間になっている。クリスマスの飾り付けがされたリビングは広々としており、キッチンや椅子席、ソファ席が設けられ、利用者は思い思いの場所でくつろがれていた。廊下の所々に利用者が寄贈したという油絵が飾られ、古い家具が置かれており、昭和の雰囲気をかもし出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人ひとりになれる場所を設けているが、殆ど利用されていないが、面会時には利用していただいている。気の合う方々を隣同士にしてコミュニケーションを取れるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物、本人や家族の好みの物を置かれている。又、写真や装飾をする事で居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室は3階にあり、大きな窓から松山市街の良い眺めを楽しむことができる。部屋にはエアコンとベッド、整理ダンスが備えつけられており、ベッドは利用者の状態に合わせたものが配置されている。利用者は自宅から愛用のタンスや藤家具、鏡台、テレビ、加湿器等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置している。また、家族写真や利用者の手作り作品、年毎の誕生日祝い色紙等を飾って個性的な部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内全てバリアフリーにしており、安全に生活できるようになっている。危険の無いよう家具の配置には配慮している。残存能力を活かせるよう支援しているが、個々の生活に工夫されているか分らない。トイレの位置は分るよう配慮している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9番29号
自己評価作成日	平成 28年 10月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に2Fにナースが居り、緊急時などすぐDrの指示を仰げるようになっている。また、ターミナルケアにも取り組んでいる。ホーム内では、利用者の方々個々のペースでゆったりのんびり過ごしてもらえる環境づくりに取り組んでいます。フロアはもちろん廊下やお風呂場なども広々としており、利用者には喜んでいただいております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は広大な敷地に立つ介護老人保健施設の3階にあり、開設から13年目を迎える。開設当初からの理念である個別ケアや思いやりのあるケアをを大切に、地域に根ざした活動を積み重ねてきている。今年度は特に防災に重点的に取り組み、住民と協議を重ねて地域防災協定の調印に至った経緯がある。事業所と地域が互いに避難訓練に参加し、経験を共有しながら協力関係を構築している。職員は地域の夏祭りに屋台をだして参加するなど、地域の中に溶け込むよう努めている。また、介護老人保健施設を併設している利点を生かし、24時間医療体制を整備して看取りケアに積極的に取り組んでいる。今年度より、3ユニット複数管理者体制で再スタートし、話し合いを重ねながら職員の結束を図り、サービスの向上を目指そうと意欲的に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) たんぽぽ

記入者(管理者)
氏名 渡邊和子

評価完了日 平成 28年 10 月 21 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎週月曜日には申し送り時に施設理念の復唱を行い職員、管理者共に実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの理念である「一人ひとりの思いや生活を大切に、その人に合った個別ケア、相手の立場に立ち思いやりのあるケアをする」を大切に継承し、それに基づく行動指針を作成してユニット事務所に掲示し、毎週月曜日に唱和して職員間で共有している。管理者は「笑顔で、思いやり、優しい声かけ」を大切にしてケアを行うよう指導しており、職員もその実践に努めている。</p>	今年度新体制で再スタートし、チーム作りに意欲的に取り組んでいる。この機会に改めて理念に立ち返り、事業所が目指すケアについて造詣を深め、職員の意思統一を図ることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方とのふれあいを大切に、地域行事に参加し又、事業者で行われる運営推進会議の参加を通して交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入しており、回覧板や運営推進会議で地域行事の情報を得てできる限り参加するようにしている。利用者は地区夏祭りに家族と共に参加し、職員はフランクフルトを販売して好評を得ている。秋祭りには神輿や獅子舞が複合施設を訪れ、利用者は楽しみにしている。事業所が行う夕涼み会には近所の人を訪れて一緒に楽しんでいる。また、地区の小学生が年2回訪れたり、利用者が運動会の招待を受けて参加する等、相互に行き来して交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して認知症を理解して頂いています。その時には勉強会や現状報告等も実施しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 地域の方々やご家族様への報告又は意見を言ってもらって の話し合いに努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、家族や町内会長、民生委員、市担当課職 員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議で は、利用者状況や活動報告のほか、今年度は災害時避難訓 練や協力体制について重点的に話し合った結果、地域防災 協定の調印を行うことができた。議事録は廊下に掲示して 周知を図ったり職員に回覧している。</p>	管理者は運営推進会議への家族の参加を増やし意見を 述べてもらいたいと考えており、開催場所をユニット に変更することで、参加しやすい環境になると考えて いる。避難訓練等への協力の意向を示す家族もおり、 さらに家族との協力関係を深めていくための環境づく りに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 二か月に一度ご家族様、町内会長、副会長、民生員、市の 担当者、包括支援センターの職員等の参加を頂き利用状 況、又今年度は特に防災に対する意見交換についてゴミ 処理場の設置についても幅広く 意見を出してもらっていま す。会議録は常に廊下に提示しています。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター職員や市担当課職員は運営推進会議 に参加して事業所の状況を把握し、助言等を行っている。 相談事項があると、介護支援専門員が市に出向いて担当者 の指導を受けている。地域包括支援センターが主催するグ ループホーム連絡会に参加して交流したり、入居相談を受 けることもある。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 施設全体での身体拘束や虐待についての勉強会を実施して いますがやむを得ず身体に危険な場合についてはご家族様 に伝え同意を頂いています。しかし拘束は極力しない努力 をしています。</p> <p>(外部評価) 職員全員が身体拘束の具体的な行為を理解し、拘束をしない ケアに取り組んでいる。転倒の危険がある利用者に対し、 夜間のみ4点柵を使用したことがあるが、その際は家族に 説明し了承を得た上で必要最小限の使用にとどめている。 また、事業所は3階にあり、エレベーターはキーロックが かけられているが、階下に降りる際は職員が付き添って いる。言葉の拘束についても意識しており、言い方を工夫し たり、その後のコミュニケーションを大切にしよう努め ている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は利用者の変化に早く気付くよう常に観察をし、ささいな事でも各々の職員同士で話し合い常に利用者のケアに努めるといった思いを共有し、利用者の介助に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護については勉強会が出来ていない為、理解不足の点もあり活用できていません。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所される際に管理者・ケアマネージャーの方から十分な説明をし理解して頂いている。変更ある時は話し合い又はこられない場合には電話等にて説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族様面会時には職員の方（特に担当者が居る場合には担当から）声掛けをし話しやすい場面を提供している。また、月に1回家族様に手書きのメッセージを添え、請求書やその月の行事等も一緒に送付し利用者の状況を報告している。又、意見箱も設置している。	
			(外部評価) 地元出身の利用者も多く家族の面会が多い。職員は面会時家族に声をかけて日常の状況を伝え、要望を聴き取るよう努めているほか、担当職員が便りを作成して毎月送り意思疎通を図っている。家族に声をかけて花見や夕涼み会に参加してもらい、交流の機会を持って関係を深めている。また、介護保険制度変更時や防災訓練の際は、家族会を開催して意見交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一回ユニット会を開き、職員同士で意見交換をする場を設けている。	
			(外部評価) 職員は毎月行われるユニット会議で意見や提案をすることができる。管理者は職員に心がけて話しかけるようにして意見や想いを把握しよう努めており、10代から60代の幅広い職員のチームワーク作りに取り組んでいる。新入職員に対し新人研修や個別指導の仕組みがあるほか、研修助成制度や職能手当支給制度があり、職員は意欲的に研修に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1回、各個人で自己評価をしてもらい、給与水準や労働環境等に反映させて、各自が向上心を持って働けるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的な施設内の勉強会を開催して職員各自のレベルアップに努めている。法人外の研修は、不定期ではあるが内容を吟味しながら出来るだけ参加できるようにし、OJTに活用している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループ内の他事業部とは交流があり、勉強会やイベント等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいるが、グループ外と同業者との交流は乏しく、取り組めていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、担当者、ケアマネージャー等が直接本人・家族様と話し合いをし安心して入所して頂ける様努めている。又、一か月ぐらいの間でカンファレンスを開き新たな意見も言ってもらい良い関係が作れる様努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面かに来られた際にはしっかりと状況報告し家族様の不安を取り除く様努めています。又、日々については変化等ある場合は細かく電話をさせて頂いています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族としっかりと対話をし意見や要望を尊重し様々な視点から考えた対応をするよう努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が安心して過ごして頂ける様に様々な視点より声掛けをし、出来る事についてはお手伝いもして頂く様に信頼関係を築いていけるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日常生活や変化を必要に応じて電話をしたりし、報告をさせて頂き信頼関係をしっかりと築きいろんな行事にも参加して頂けるよう協力し合い利用者を支えていけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 施設全体についても比較的家族様や身内の方の面会が多いと思います。その際面会時にはしっかりと会話をしその中でいろいろな情報を聞き取り利用者同士の関係作りに努めています。しかし最近の利用者の認知症の重度化又、身体的に重身になってきている利用者が多いため支援の継続が難しくなっている。 (外部評価) 入居時に生活歴等を聴取して人間関係や背景の把握に努め、入居後は日常の会話を通して聞き出したことを記録して職員が共有するようにしている。また、階下のデイサービスに来訪した方と一緒にイベントに参加できるよう支援している。ユニット合同で行事を行うこともあり、新たな馴染みの関係ができています。105歳のお祝いに103歳の利用者が詠んだ句を色紙に書いて送り、飾っている利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日14時よりレクリエーションの時間を設け利用者間でコミュニケーションが取れる空間を作り職員が中に入り支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 節目の行事には招待状を出し出席して頂ける様に支援をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 定期的に利用者ごとにカンファレンスを実施し希望や意向について検討するとともに日常会話の中で何をしていたかどう過ごしていたかなどから推測し、把握できるように努めている。 (外部評価) 職員は日常の会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。就寝時や入浴時等1対1になる機会を利用して、利用者の話しをよく聴いている。思いを表すことが困難な利用者には表情や行動等をみて推測するよう努めている。利用者が言った言葉を記録に残し、モニタリング時に振り返って思いの把握に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サマリーやフェイスシート等を活用しその人らしい生活が送れるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録の記入はもとより日々の身体状態、体調の変化に応じて生活の支援を変更したり必要に応じて医療との連携を取りながら対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の方々にもカンファレンスに参加して頂き要望をお聞きして、困っていることについて話し合いケアプランの見直しに繋げている。 (外部評価) 計画作成担当者が介護計画を立案し、職員が話し合って介護計画を完成させている。職員は毎日計画を意識しながらケアを行い、実施状況を記録している。利用者担当職員が毎月モニタリングを実施、状態の変化がある場合はその都度、ない場合は3か月毎に介護計画の見直しを行っている。また、6か月に1回開催するサービス担当者会議には、家族や必要に応じて看護師も参加して話し合い、現状にあった介護計画を作成している。介護計画はその都度家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間での声かけ連絡ノートの活用により実践に生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出時特に病院への通院に対してヘルパーの支援、その他活用できるサービスの多様化に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行事があるときみはボランティアの協力の下、安全な生活ができる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 事業所常駐の医師及び連携を取っている河原医院での受診 のほかにご本人ご家族の希望される病院等への受診の支援 も行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診する ことができるが、入居時に往診してもらえる協力医に変更 する利用者が多い。専門科外来受診の際は家族が付き添っ ているが、困難な場合は訪問介護や介護タクシー等利用で きるサービスを紹介して手配する支援を行っている。階下 の複合施設に24時間看護師が常駐して、医師との連携や 相談に応じてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常駐の看護師に何か特変（体調面での特変や事故など）あ ればすぐに連絡し、事細かに状況を報告し適切な処置や指 示を受けられるように対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 介護サマリーを作成し情報の提供を行い（入院者）病院生 活での支障のないように努めており、退院のめどがある ときは病院側との連携を密にしてスムーズに退院でき るように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化、終末期の早期段階でご家族、医療（医師・看護 師）との話し合い、ご本人ご家族の希望を踏まえたうえで 今後の方針を共有し、職員一同で統一したケアに努めてい る。	
			(外部評価) 大半の利用者や家族が最期まで事業所で暮らしたいという 希望を持っており、看取りに関する指針を作成して看取り ケアを実施している。複合施設の協力医や看護師が24時 間体制をとっており、すぐに対応してもらえるので職員は 安心してケアを行うことができている。家族が希望する場 合は、宿泊スペースを用意して家族とともにケアを行い、 「病院ではできない世話をしてもらった。」と感謝されて いる。職員は「悔いのない介護をしよう。」と話し合い、 看護師が開催するターミナルケア研修会に参加して研鑽に 努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会でのマニュアル等で、急変時、事故発生時にどう対応するか事前に周知しているか、訓練は行えておらず実践力に乏しいと思われる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に日中、夜間想定の実業所全体での防災訓練を行い、又地域とも災害時協定を結んでいる。	
			(外部評価) 複合施設全体で年2回日中と夜間を想定した避難訓練を行い、近所の住民も参加してもらうほか、地区で行われる防災訓練に職員が参加して協力しながら避難訓練を実施している。施設は災害時避難所として協定を結んでおり、地域の人々に頼られている実感を持って、協力体制を構築している。水、食料、毛布等の備蓄品を最上階に保管し、事務所職員が管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人が年長者で、施設を利用して下さる利用者様であることを忘れず、人格を尊重しながら丁寧な対応を心掛け、親しみのもてるコミュニケーションが図れる様に気を付けている。	
			(外部評価) 職員は利用者は人生の先輩であり、敬意をもって接すべきであるという認識のもと、一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。管理者は、声かけが過度な馴れ合いにならないよう、気づいた時はその都度指導している。通常居室のドアは閉めて、プライバシーの確保に努めている。現在入浴や排泄介助時、同性介護を希望する利用者はいないが、希望があれば応じる考えでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の声に耳を傾け、出来る限りの中で本人の意向に添った日常生活の支援が出来る様に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人の健康状態やペースに合わせて出来る限りの中ではあるが希望に添った生活を送れる様に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) モーニングケアなどの日常的なことから月1回の理容、美容、外出時にはそれに応じた服装、身だしなみが出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) もやしの根切りや豆の皮むきなど簡単なお手伝いをしていたり、献立の掲示を見て頂き食事に対する楽しみを向上するようにしており、食後も食器拭きを手伝って頂いている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスのよい食事を各ユニットで調理している。利用者は調理の匂いや音を楽しみながら、おしぼりの用意や食器拭き等できることを手伝っている。現在食事介助を必要とする利用者が多くなっているため、ゆっくり食べてもらえるよう時間をずらして介助している。また、利用者の状態に適した食事形態を工夫して、十分な栄養が摂れるよう支援している。誕生日等と特別な日や月2回の自由献立の日は利用者の希望を取り入れて調理し、楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量の少ない方には好みのものや補助食品で栄養を補い、又飲み込みの悪い人には刻み、トロミ剤の使用を行なう等、一人ひとりに応じた食事形態の支援を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず声かけをして口腔ケアを行い、自力で出来ない方には介助を行っている。又、義歯を使っている方には毎晩、洗浄剤での清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の状況に応じた声かけのタイミング、オムツパットの使用を検討し、失禁の無いように努めておりオムツパット検討中の方でも可能ならばトイレでの排泄が出来るように適時に検討支援している。	
			(外部評価) 各ユニットにトイレが2か所あり、男性用トイレや車椅子を自走する利用者がゆったり利用できる広さのトイレがある。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。ブザーを押すことができる利用者は夜間も知らせてもらってトイレ介助を行なっている。利用者の状態の変化に応じて職員で話し合い、適切な排泄用品を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日排便の有無をチェックして個々の体調に応じて処方されている便薬を服用しそれでも改善されない場合は医療側に指示を仰いでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の配置の都合上、週3日の入浴となっているが一人一人のタイミングや気分に合わせて入浴して頂くように努めており、状態によっては全身、部分清拭を施行し、清潔保持を心掛けている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に週3回を基本に入浴している。浴槽に昇降機が設置されており、立位がとれない利用者も湯船に入ることができる。浴室は広く、特別浴槽は改修予定で、より楽に浴槽へ移ることができるようになる見込みである。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫したり、日を変えて無理強いすることなく入浴ができるよう支援している。入浴中はゆっくり話しをしたり、ラジオをかけて入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人一人の状況（体調気分）に応じて日中も休息して頂き、健康状態や室温、身だしなみ等もチェックして気持ちよく休まれるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の薬の情報を職員が把握、確認できる環境を考えており、服薬して頂く際も職員同士で服薬される方の名前を呼びあい確認し、ご本人の目の前で再度名前を呼び上げ、ご薬の無いように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日レクリエーションを行い、可能な方にはお手伝いをして頂いたり、歩行訓練等のリハビリ、飲酒等の嗜好品の提供を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族が希望される場合は、ご家族同伴で外出されており、その他でも3ヶ月に1回ほど郊外ドライブを行い、天気の良い日には施設内の庭への散歩も行っている。 (外部評価) 天気の良い日は広い敷地に出て、散歩や日光浴を楽しんだり、近くのコンビニまで買い物に出かけることもある。夏季には近所の人々が蝉取りに来ることもある。また、福祉車輛を使用して桜やコスモス等季節の花々の見物、大型スーパーや道の駅等に遠出して、外出を楽しめるよう支援している。花見には家族にも声をかけ、車椅子やテーブルを自動車に乗せて全員が出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は利用者個人が行うには難しく職員が行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望があれば職員見守りの下、電話でのやり取りが出来る様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) こまめに清掃を行い清潔保持に努め、写真の掲示や季節に合わせた壁飾りを作り、楽しい空間作りを心掛けている。	
			(外部評価) 3ユニット個々に専用の入り口があり、それぞれが特徴のある共用空間になっている。クリスマスの飾り付けがされたリビングは広々としており、キッチンや椅子席、ソファ席が設けられ、利用者は思い思いの場所でくつろがれていた。廊下の所々に利用者が寄贈したという油絵が飾られ、古い家具が置かれており、昭和の雰囲気をかもし出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者一人一人専用の場所（お気に入りの場所）がフロア内にあり、普段はそこで過ごして頂いている。又、必要に応じて家具の移動などの模様替えを行っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人や家族が希望されるなら使い慣れた家具の持込も受け入れており、思い出のものや写真の掲示、飾り付けをしてその人らしい居室の整備に努めている。	
			(外部評価) 居室は3階にあり、大きな窓から松山市街の良い眺めを楽しむことができる。部屋にはエアコンとベッド、整理ダンスが備えつけられており、ベッドは利用者の状態に合わせたものが配置されている。利用者は自宅から愛用のタンスや藤家具、鏡台、テレビ、加湿器等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置している。また、家族写真や利用者の手作り作品、年毎の誕生祝い色紙等を飾って個性的な部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご自分の居室やトイレ等は分かりやすく案内を掲示し、適時お伝え又はお教えして出来るだけ不安の解消に努めている。又、全面バリアフリーとなっており、廊下等にも手すりを設置している。	